

令和元年度県庁舎跡地長崎西役所跡範囲確認調査結果について（概要）

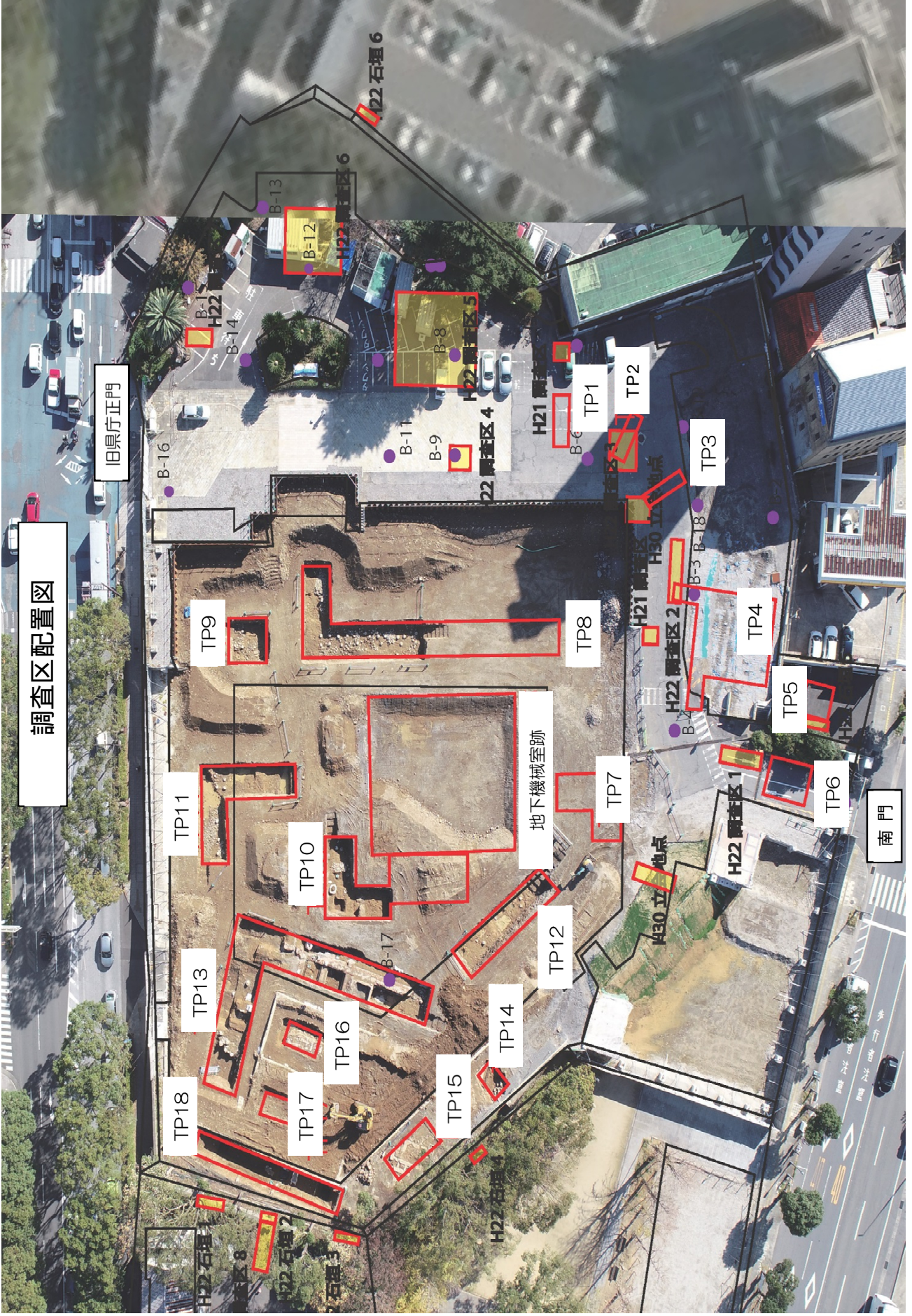
1. 遺跡名 ながさきにしやくしよあと 長崎西役所跡
2. 所在地 長崎県長崎市江戸町 2 番 13 号
3. 調査主体 長崎県教育委員会
4. 調査期間 令和元年 10 月 16 日（水）～令和 2 年 1 月 15 日（水）
5. 調査面積 1,016 m²
6. 調査区 試掘坑（TP）18 箇所（調査区配置図のとおり）
7. 調査結果

（1）遺構について

- TP1、2、4、6、14 で石垣もしくは石塀と思われる遺構を確認した。
- TP5 で江戸時代前期の町屋の土坑等を確認した。
- TP7～13 で 4 代目県庁舎の基礎杭を確認した。
- TP8～16、18 で 3 代目県庁舎に関連する遺構を確認した。
- TP9、13、15、17、18 で江戸時代の盛土もしくは整地土もしくは土坑等の遺構を確認した。

（2）遺物について

遺物は、陶磁器、瓦片、金属製品、ガラス製品、貝類、獣骨などが出土している。陶磁器については、16 世紀から 17 世紀前半期の けいとくちんようせいじき 景德鎮窯製磁器、しやうしゅうようせいじき 漳州窯製磁器、東南アジア産陶器類や同時期の肥前産陶磁器などが出土している。



調査区配置図

(3) 各試掘坑について

TP1

この調査区からは石垣や近代の陶磁器や瓦片が出土した。



石垣検出状況（東から）



調査終了状況（西から）

TP2

この調査区からは石垣、石罫状遺構を確認した。



石罫状遺構（上段）および石垣（下段）検出状況（東から）

TP3

4 代目県庁舎建設後の配管敷設によるかく乱があり、遺構は確認できていない。

TP4

遺構として石垣を確認した。西側は切石を積み上げた石垣で、東側は自然石を積み上げた石垣になる。自然石を積み上げた石垣については、江戸時代前期までさかのぼる可能性があるとの専門家の所見を得ている。



石垣検出状況（南から）

TP5

江戸時代前期と考えられる町屋の土坑を確認した。出土遺物は景徳鎮青花、漳州窯青花、東南アジア製陶器、国産陶器、国産磁器、瓦である。陶磁器は、中国製青花と陶器類が主体を占めており、国産磁器は極めて少数で、年代は1630年代を下限とする。



出土陶磁器類



出土瓦

TP6

南北方向に石垣を確認した。3代目県庁時代の江戸町側に通じるスロープ部分と考えられる。また、その内側にL字に曲がる江戸時代後期のものと考えられる石列を確認した。



遺構検出状況（北から）



石垣内側にある石列検出状況（南から）

TP7

4代目県庁舎建設後の配管敷設によるかく乱により遺構は確認できていない。

TP8

4代目県庁舎基礎杭と基礎の割栗石を確認した。



地山面検出状況（南から）



石敷検出状況（西から）